

英国サンダーランド大学 人文・社会科学部

Japanese Studies, School of Humanities and Social Sciences, University of Sunderland

奥村圭子 keiko.okumura@sunderland.ac.uk

1. サンダーランド大学での日本語教育

英国北イングランドにあるサンダーランド大学では、日本語教育は1986年から日本研究科によって成人教育として始められた。1993年の大学の改編時にモジュール制がしかれたと同時に日本研究科はその当時の社会科学部に吸収され、日本語も大学内の語学ノンスペシャリストの学生向けの語学モジュールとして紹介され始めた。1993年にレベル1、1994年にレベル2、1995年にレベル3が順に紹介され、2000年にはレベル4が認可された。2001年現在、日本語も含む語学学科は人文・社会科学部の所属となっている。

学生は1学年につき120creditsの単位を取得していくが、日本語はUniversity Language Schemeの選択科目で、20credits、つまり1学年の単位の6分の1にあたる。学生によっては120creditsの枠外で履修している学生もいる。国際ビジネスとビジネスコンピューティングの学生のみが副専攻として日本語を履修することができ、その場合は3年時に日本で企業研修か在英の日本関連企業で研修をし、そのときに30credits分の日本語プロジェクトを何らかの形で行うことになっており、最終的に日本語関係の科目が学位の4分の1を占めることになり、学位のタイトルに“with Japanese”が記される。

2. 日本語教育の概要

2. 1. モジュールと履修者数 (2000-2001)

Japanese Language and Culture Level 1	22名 (中国系15名、英6名、仏1名、)
Japanese Language and Culture Level 2	7名 (中国系3名、英4名、)
Japanese Language and Culture Level 3	8名 (中国系4名、英3名、独1名)
Japanese Language and Culture Level 4	8名 (英5名、中国系2名、ギリシャ1名)

2. 2. 教師

専任講師 1名、年により非常勤講師 1名

2. 3. 主教材

Level 1	Japanese for Busy People I (かなバージョン)	Kodansha International
	Japanese Language and People (ビデオ)	BBC
Levels 2-4	Japanese for Everyone	Gakken
	「ヤンさんと日本の人々」(ビデオ)	ビデオ ペディック

2. 4. 授業時間数

Levels 1-4 週3時間 X 24週 = 72時間 3時間のうち、2時間セミナー、1時間LLセッション

2. 5. 評価法

Levels 1-4 学習目標と評価法の基準となるもの
- 言語能力 linguistic competence
- 文化意識 cultural awareness
- 多分野に応用可能なスキル transferable skills

評価方法

- 言語能力 <— 年2回のTCA(time-constrained assessments) 60%
話す(15%)、聴く(15%)、読む(15%)、書くそして文法(15%)
- 文化意識 <— ミニ文化プロジェクト及び発表 20%
- 多分野に応用可能なスキル <— ラーニング・ポートフォリオの提出 20%